

[第638回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、会議室での審議を止め、委員全員に書面参加で対応してもらった。書面提出の期日を令和3年6月25日（金）とした。

2. 開催場所 上記参照

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

※ 新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため書面参加で対応

書面参加の総数 6名

書面参加の委員氏名

成瀬 國晴	河内 厚郎
たつみ 都志	鎌田 雅子
萩原 章男	内田 透

4. 議題

1) 番組審議（書面参加） 『カンテら！』

2) その他

5. 議 事 の 概 要

議題 1) 『カンテら!』

について、番組の企画意図・内容の資料をご覧のうえ、番組を聴取してもらい、書面でご意見を提出してもらった。

6. 審 議 内 容

社 側 <番組資料を送付>

『カンテら!』は毎週月曜日と火曜日の深夜3時から放送している番組です。ラジオ局を持たない関西テレビが、62年の歴史の中で初めて挑戦する真夜中のラジオ。夜3時からのディープでカオスな時間に、自分をさらけ出してマイクに向かう60分です。恰好つける必要もマニャックさを遠慮することもなく、関西テレビアナウンサー2人が、個性あふれるラジオ番組を展開します。

出演者それぞれが担当するコーナー、前半は竹上萌奈アナウンサーによる「あな・どら」。竹上アナウンサー自身が書いたラジオドラマの台本を基に、堀田アナウンサーと竹上アナウンサーがキャラクターを演じました。そして月曜日・火曜日共通コーナーの「カンテレトピックス」は関西テレビ内で起こった些細な出来事を紹介するコーナーです。この回では関西テレビアナウンス部の電話事情について語っており、テレビでは絶対に聴くことができないようなトピックスを紹介しました。

そして後半のコーナーは堀田アナウンサーの「堀田篤の友達になってください」。その名の通り、堀田アナウンサーが「カンテら!」を通して友達の輪を広げていこうというコーナーです。この回ではラジオ大阪の藤川貴央アナウンサーが出演し、テレビとラジオの違いなどを話しました。

<各委員の書面でのご意見>

委 員 テレビアナウンサーが普段見せない素顔の部分に触れることができ、興味深い番組。関西テレビの堀田篤アナ、竹上萌奈アナと、ラジオ大阪の藤川貴央アナがフリートークするコーナーで、藤川さんが語っていたテレビアナとラジオアナの違い…テレビでアナは番組内で自分の思いをほとんど言わないが、ラジオでは1時間自由に話すこともある…という話から、同じアナウンサーでも全く違う技術を求めら

れるのだと再認識した。テレビアナ経験を経てラジオアナになった藤川さんの「最初は戸惑いもあったが、だんだん快感に」という言葉には、なるほどと妙に納得した。

堀田さん、竹上さんのお二人とも、さすが本職のアナウンサー。大変聴きやすく、むしろ「ラジオ映え」する声ではないかと感じた。特に感心したのは、ラジオドラマ。さまざまな声色で何人もの役をさらりと演じる。続けて違う役のセリフを言うシーンもあったのに、違和感がない。ストーリーにはやや突飛なところもあったが、ずっと頭に入ってきた。

普段着の雰囲気でも気取らない進行も好感が持てる。アナウンス部内で電話を取る速さを競っているという「カンテレトピックス」でのトーク、どうでもいい話題だが、だからこそ穏やかに聴ける。「ポテチ袋の開け方閉め方からわかる性格 竹上調べ」という軽い心理テストのようなトークも緩くて良く、「自分は何タイプだろう」と思わず引き込まれる。ラジオらしい自由な流れに心地よさを感じる。今後、リスナーからのリクエスト企画などにもチャレンジすると面白いかもしれない。

事情はあるのだろうが、惜しむらくは放送時間。週始めの月曜日、火曜日深夜の午前3時からというのはいかにももったいない。だからこそ、各アナウンサーが素顔を出せるというプラス面もあるのかもしれないが…。これからも、それぞれの個性あふれる番組を期待している。

委員

ともかく堀田アナウンサーが騒々しい。テンションを高くして盛り上げようとしているのだろうが、深夜番組（27：00～28：00）にこのテンション要る？という感じがする。

出たところ勝負で、何も用意していない感じがする。

一方竹上アナウンサーは、すべてのコーナーで準備万端で好感が持てた。最初の7分あまりの無駄話が鬱陶しい。「いつまで続くのか」と思う。アナウンサー相互の紹介なのかもしれないが、ファンでない限り、顔もイメージも浮かばず、話に入れない。そもそもスタジオで相互に盛り上がっているとリスナーはしらける。特に堀田篤アナウンサーのハイテンションにはついていけない。

竹上萌奈アナウンサーはまだまし。

【ドラマ】

銭湯ファンタジー『極楽の湯』

主人公他男性声：ニート/芸能界憧れ 役者の堀田さんがあまりにも下手くそ

女性声：こちらはまだましだが、でもやはりイマイチ。

二人がドラマに出ることが大前提だろうが、脚本はシンプルで分かりやす

いのに、残念。

【カンテレットピックス】

内輪のトピックス過ぎないか？

新人時代に電話を「先取る」ことの意味～社内の名前を覚えるなど～をもう少し深掘して一般的視線も欲しかった。

【堀田篤の友達になってください】

ゲスト：藤川アナウンサー：

竹上さんの藤川評に説得力があった。また2時間以上かけて用意したという「ポテチ袋の開け方」で性格分析する点は面白い。竹上アナウンサーの「チャート」を知りたいと思ったほど。

「同じアナウンサーでもテレビとラジオではこんなに違う」という藤川さんの話の内容は説得力があった。

委員

ラジオ局を持たない関西テレビのアナウンサーが、初めて深夜のラジオ番組で語り合うという企画。堀田篤アナウンサーと竹上萌奈アナウンサーの出演。

個人的なトークを披露する過去の出演者たちは、みな、お喋りが長いと竹上が指摘する。アナウンサーのフリートークは、テレビではなかなか出来ないらしいので、この枠は貴重な一時間といえる。楽しみにしているリスナーもいることだろう。

堀田も竹上も、独り言が多いと話し、竹上は、自身のそれを友達がいなかったから、と分析している。堀田の独り言は、「怒り」を発散しているようだと言撃者の竹上は語る。学生時代や関テレ入社後の話題をざっくばらんに話し合う。

コーナー①「あな・どら」は、竹上の自作のラジオドラマ（「極楽の湯」）。堀田と竹上が一人何役もこなして、オチには引きこもりやジェンダーフリーなどの話題も盛り込んでいる。時系列に工夫を凝らしたら、シュールな枝雀落語のような面白さを出せるかもしれない。

「カンテレットピックス」では、関テレ・アナウンス部にかかってくる電話をとる速さについて。

コーナー②「堀田篤の友達になってください」のゲストは、藤川貴央アナウンサー。ドラマについて語り合い、また、互いを褒め上げる。テレビとラジオのトークの違いについて、喋りのプロらしい話が繰り広げられる。アナウンサーの個性がよく表出されて楽しい番組だ。ファンにとって、また社内では評判になるだろう。

委員

テレビ局のアナウンサーが、ラジオ局で番組をする。

前例があるのかわからないが、画期的な番組だと思った。

その画期的な部分を内容にどう活かすのか、この番組に課せられたポイントだと思う。

今回のラジオドラマだが、テレビ局のアナウンサーが「ラジオ」という媒体で何ができるのかということのを発案されたのだと思うが、「ラジオドラマをやってみよう」ということ自体は面白いと思うが、ストーリーが何を伝えたかったのかわからなかった。

脚本を書くこと自体は本業ではないので面白くなくてもいいとは思いますが、なぜこの内容なのか？疑問だ。ここはラジオ大阪側がもう少し手入れ・手直しをしてもよかったのではないかと思う。

ラジオの世界は、テレビ以上にシビアな部分もあると思うし、ラジオだからできることもたくさんあると思う。

今後も「ラジオドラマ」という概念を覆すような大胆なものをやってみて欲しいと思う。

アナウンサー室の電話対応事情は興味深く聴いた。こういう些細な日常を話題として広げるのがラジオの面白さでラジオパーソナリティの力量が試される場面だと思う。

テレビ局だから、ラジオ局だからという特殊な事情とは関係ない、細かい話を拾い披露していつてもらいたい。

ゲストコーナーでは、ラジオとテレビの違いの話はおもしろかったが、褒め合いすぎている気を使いあっていると感じた。

それよりももっとお互いの本音をぶつけあい、もっと深い部分を聴きたかった。

この「本音」の部分をついにだしていか、がラジオ初挑戦の関西テレビアナウンサーの方々の今後の課題だと思う。

当然、おしゃべりのプロの方々ですので聞きやすいし、「ラジオ番組」になっていると思う。

しかし、「ラジオっぽいもの」を普通にやってもそれはせつかくの「他局のアナウンサーが出演」という特殊なおもしろさ活かさないのかなと思う。

今回はまだ、探り合いというかお互いに気を使いすぎているという印象だった。

スタッフや出演のアナウンサーさんたち一丸となって知恵を出し合い、リスナーや世間を驚かせるような素敵な番組になるよう、期待している。

委員

テレビ局のアナウンサーが真夜中のラジオ番組を持つという興味ある番組だから興味持って聴いた。

テレビとラジオはおなじメディアでも映像がある、ないということだけでも随分違う。

ニュースにしてもバラエティーにしても伝えると言う仕事のアナウンサーにもそれが言える。

カメラを正面にしてしゃべるテレビアナウンサーは表情、服装など喋ること以外にもフロアディレクターのテロップなど外的要素のための気遣いが多くいり、よそいきになり自分をさらけ出すことはない。

反面ラジオは小規模でテレビほどの気遣いは少ないが画面に映らない分リスナーの注意が耳だけに集中し表情が見えなくても体調や嘘はすぐ見抜かれる。そこにラジオの怖さがある。

この番組は27時から1時間と言う枠だけれどもリスナーがいるちゃんとした番組だ。

今回担当の堀田アナは4回目、竹上アナは初めてだが、堀田アナの声は割れていて早口で聴き取りにくい。

竹上アナは初回なのに落ち着いていて聴き取りやすい。

「あなどら」

アナウンサーに役者や脚本家を求めないが、アナログ時代のラジオドラマになじんだ耳にはSE効果音がわざとらしく大きいのが気になった。

「カンテレ トピックス」

リスナーは、関西テレビのアナウンサーとわかっていてテレビ画面では分からないその人となりを知りたいだろうからリスナー目線にしてはどうだろう。

「ゲストコーナー」

ラジオアナ藤川さんの立ち位置がはっきりしている。

それはテレビアナ3年、ラジオアナ8年というキャリアの中で長い時間その戸惑いが経験になっていると思う。

3人の声が重なって聞きづらくリスナーを置いてきぼりにしている。

資料にあるようにダイープなカオスの時間に自分をさらけ出し、格好つけることもマニアックさに遠慮することもない番組作りを良しとするが、テレビアナとラジオアナとの違いは承知の上で原点に戻ってコーナーの立て直しを時期を見てやってみてはいかがだろうか。

深夜だからとりすました番組は要らないが、テレビアナがラジオの中でどう楽しみ、リスナーもともに楽しむかのわきまえをもったサービス精神

が必要だと思う。

経験から言うと、テレビよりラジオは数十倍楽しいし役立つものだが侮るところもないものだ。

せっかくのコラボだからどちらの局にも良いようになってほしい。

委員

オープニングは、テレビにはないフリートークを続けるラジオとの違いに始まり、二人の独り言仲間の話で、熱くてシンプルな堀田アナ、冷静ながら人を深く観察して時に突っ込む竹上アナのキャラクターが際立って見えてくる。

あな・どらは、リアルか夢か判別できない話がふくらみ、首相まで出てきてどうなるかと思わせたまでは不安定ながら楽しかったが、最後の「アキ子よ」のオチにはがっかりした。社会や人間の本性に対するアイロニーを表現するなど、リスナーに訴えかける主題がないと、聞き応えにはつながらないのでは。そもそもこのコーナーが、テレビアナウンサーがラジオドラマを器用に演じる場所を見せたいのか、慣れないドラマでしどろもどろになる姿を面白いと思わせたいのかなどよくわからない。結局、手間がかかっている割に、何もかもが中途半端になっているのではないか。

カンテレットピックスは、誰が電話を先にとるかという他愛のない職場話だが、堀田アナの熱さと竹上アナのドライさがうまくかみ合っていて楽しい話になっている。結局、竹上アナが電話をとることはないかと想像しながら会話を聞くことが楽しかった。短時間に二人それぞれの個性を際立たせられるのは、アナウンサーの技量のうちであろう。

友達になってくださいは、藤川アナが入って本職のラジオアナウンサーの知見が加わることで、さらに話が深みを増して面白くなった。竹上アナのオタクな性格診断が流れを混沌とさせるが、本人に全くためらいがなく、男性陣が唯々諾々とレッテル貼りに従っていて気持ちよく面白かった。

テレビで、アナウンサーがこれだけ人柄を見せることはないし、テレビアナウンサーへの好感につながる番組になっている。このラジオを聞けば、テレビ番組での姿も身近に感じられるだろう。深夜3時という時間帯の放送でなくていいのではとも思う。

社側

書面での貴重なご意見、ありがとうございました。

以上

7. 審議会の答申又は改善意見に対してとった措置および年月日

な し

8. 審議会の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表内容・方法及び年月日

- ・「番組審議会だより」 (第638回大阪放送番組審議会議事録の要約)
「愛してラジオ大阪」 内で放送
放送日 令和3年 7月 28日 (水) 23時20分～23時30分
- ・「番組審議会だより」 (第638回大阪放送番組審議会議事録)
ラジオ大阪ホームページ (<http://www.obc1314.co.jp>) に掲載
- ・ 番組審議会の議事録の原本は事務局立ち会いのもと閲覧に応じる。